



# Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2025年1月 vol.28

あけましておめでとうございます。Oasis meets Booksは次回4月号で寄稿者数も累計200名を超える予定です。

職員の皆様、いつもご協力ありがとうございます。

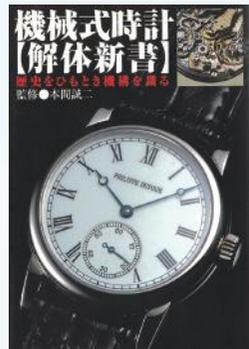
ところで、私は昨年ほぼ毎日「11人のねこ」シリーズの本を子どもと一緒に読みました。鮮やかな色とユーモアのある内容が子どもの心を惹きつけ、私もこの心温まる時間がとても楽しみでした。今年もどんな本に巡り合えるか楽しみです。皆様にとってよい一年に、そしてよい本に巡り合えますように。(教育委員会:委員長 前田 吉紀)

## 機械式時計【解体新書】 / 本間 誠二

### 老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 内堀 主税



この本は非常にマニアックな時計の本で、興味がなければ読み進めることは難しい一冊となっており、腕時計の歴史や時計が動く仕組み、各時計ブランドの話などが書かれています。



機械式時計の魅力は何となくともその芸術的な内部の構造です。2,000以上の部品が入っているものもあります。何より機械式腕時計を語るうえで忘れてはいけない人物が『ルイ・ブレゲ』です。ブレゲは腕時計を200年進めたとされています。懐中時計の時代に耐衝撃吸収機構や自動巻き機構を発明し、機械式の弱点である誤差を超絶技巧の『フライング・トゥールビヨン』という機構で改善し、現在の腕時計に使用される機構の70%はブレゲによって発明されたものとなっています。そのほかにもブレゲ数字・ブレゲ針など特徴的なデザインも今なお使用されています。

この本は腕時計好きにはたまらない一冊であることは言うまでもありません。是非皆様もスマートウォッチはいったん忘れて機械式時計の世界に足を踏み入れてはいかがでしょうか？

・次回⇒老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 竹井 綾子

## 日本一短い「母」への手紙 一筆啓上 / 福岡県丸岡町

### 老健 オアシス 衛生 / 小郷 仁美



平成7年に購入したとても古い本ですが、今でも何度も繰り返し読んでいる、思い入れのある大切な一冊です。



題名のとおり、一般の方々から寄せられた、母親に向けた日本一短い手紙をたくさん読むことができます。世代ごとに受け取り方が違い、何度読んでも新しい視点からの発見がありますし、現在自分が置かれている環境によっても見え方が違ってくことも本書の魅力のひとつです。

審査員の時実新子先生の「ありきたりの『母さんありがとう』よりも、子からでなければもらえない痛罵をあげたい」という言葉や「親というのは、特に母はそばにいたるさく、離れると恋しく、死なれて初めて自分にとっての絶対者になるのだ」というコメントが心にしみみます。作品はもちろんですが、先生方のコメントにも共感するところがたくさんあり、楽しめる一冊です。

最後に、私が娘からもらった短い手紙を紹介します。

「お母さん 下で待たずに寝ててくれ」

・次回⇒老健 オアシス 衛生 / 足立 元子

## 今度生まれたら / 内館 牧子

### 介護支援センター オアシス / ケアマネジャー 長崎 清子



今回、Oasis meet Books 掲載にあたり、どの本にしようか悩みました。外出時にアマゾンのAudibleを無料で試したりしましたが、耳から聞くのは私には残らず、電子書籍を購入しました。読みながら私にはこの方が向いていると思いました。



主人公は70歳の主婦。そして作者の内館さんも同世代。自分自身がその年齢に近くなり、読み始めてほぼ同じ時代を生きてきた人と共感したり、ここは私とは違うと思ったり、大変面白くてあっという間に読んでしまいました。

書き出しがとてもセンセーショナルで、主人公の『今度生まれたら、この人とは結婚しない』から始まります。夫と二人の男の子をもうけ、専業主婦として過ごしながら「今度は別の人生を」と思ってしまったのでしょうか。周りの方々の人生に触れ、お付き合いをしてゆく中で、夫に「今度生まれても私と結婚する?」と聞きます。夫からも聞かれ『する。退屈しなかったから』と夫と同じように答えます。でもそれは付度で。本当の答えは。。。

楽しく読み進められた本でした。私は同じ作家の本を読み続けるので『終わった人』『すぐ死ぬんだから』もその内に読むかもしれないな、と思いました。

・次回⇒介護支援センター オアシス / ケアマネジャー 大塩 絹代

## クリスマス・キャロル / チャールズ・ディケンズ

### デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 杉本 健二



物語の主人公はスクルージというお金にしか興味のない冷酷な老人です。クリスマスは浮かれ馬鹿げた人々が街に溢れ、イブは共同経営者のマーレイが死去した日でもあり、最も嫌いな日です。



7年後のクリスマスイブ。恵まれない人々への寄付を募りに来た紳士に「恵まれない人は牢屋に入れればいい」と追いつ返し、クリスマスの夕食に誘いに来た甥も追いつ返し、クリスマスには休暇が欲しいという事務員には休みを認める代わりに次の日は早く出勤しろと言います。

その夜、彼の元にマーレイの亡霊が鎖に繋がれた姿で現れ、金欲物欲にまみれた人間の死後は後悔ばかりの悲惨な末路となると言います。友人のスクルージが、自分と同じようにならないために精霊がスクルージを訪れると告げ、マーレイは消えます。

そして、過去現在未来の精霊たちが訪れ、悪夢を見させられます。これまで自分の欲望の為に他人の苦しみを無視してきましたが、精霊たちの導きにより、自身の悪行の結果や周囲から与えられた愛などを思い出します。

過去の過ちを心から悔い改め未来を変える決意をし、人々に親愛と思いやりをこめた行動をします。最後には「クリスマスの楽しみ方を最も知っている人物」と言われるほどになりました。

私にとっても、他人の気持ちや与えられた環境に感謝し、過ちを認め許しを求めることができるか、心の奥深くを見つめ直すきっかけになった一冊です。

・次回⇒デイサービス オアシス長瀬 / 看護師 山本 さとみ

## どうぞのいす / 作:香山 美子 絵:柿本 幸造

### デイケア オアシス寿安 / 介護士 渡邊 由紀恵

私が紹介する書籍は「どうぞのいす」という絵本です。

うさぎが「どうぞ座って休んで下さい」という思いで置いた手作りの椅子に森のいろんな動物達が次々と訪れ、うさぎの元々の思いとは違った使い方なのですが次の人に優しい思いやりの連鎖を繋げていくお話です。



童話なので子供にも分かりやすく可愛らしいお話なのですが、「自分が良ければいい」と思う人が多い今の時代にはちょっと刺さるところもある絵本です。

この本は数年前に孫にプレゼントした絵本で、周りの人の事を考え思いやれる人になってもらいたいという思いから選んだ本ですが、今回改めて読んでみて、私自身の行動を見直し、ひとりでも多くの人を笑顔にできるように、争うのではなく「どうぞ」と言えるように心に余裕を持ちたいと強く思いました。

心が疲れた時に手に取ってみて下さい。

・次回⇒ **デイケア オアシス寿安 / 作業療法士 佐々木 千歳**



## 話し方で損する人得する人 / 五百田 達成

### 老健 オアシス 入所介護 / 介護士〈技能実習〉レー・ティ・ホン・ガン

皆様、こんにちは。私はレーティーホンガンと申します。ベトナムから参りました。



今回、ご紹介する本は「話し方で損する人得する人」という本です。

日常生活では誰でも周囲の人と話したり聞いたり、常にコミュニケーションを取っていると思います。そのコミュニケーションの取り方は人との関係性によっても違ってきます。職場、家族、友人、・・・色々な関係が無数にありますね。

では、それぞれの状況に応じてどのように話せば良いかを考えたことがあるでしょうか？

話し方ひとつで人生は得もするし、損もします。この本を読んでから、私は「得する話し方」の経験を積んできました。

皆様、話し方を通して人間関係を良い方向に変えたいなら、是非この本を読んでください。良いことがたくさん書かれています。

・次回⇒ **老健 オアシス 入所介護 / 介護士〈技能実習〉トー・ティ・フェン・チャン**



## ゴーストハント / 小野 不由美

### 特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 堀尾 淳

私がこの本のタイトルを目にしたのは、息子が学校から帰ってきた「夏休みおすめ図書」が載っているプリントでした。ホラーが好きで、軽い気持ちで読んでみました。



高校生の主人公が、心霊現象の調査・解明を請け負う【渋谷サイキックリサーチ】の所長に雇われて一緒にリサーチしていく中で、俺様キャラの所長や仲間の霊能力者達と怪事件を解決していくお話です。2巻では洋館に住む一家を襲うポルターガイスト現象で、6歳までの子どもの生命を奪う悪霊を成仏させる内容ですが、子どもがいる私としては、自分の子どもを誘拐され殺されてしまった霊の方に感情移入してしまい、この霊はどんなに悲しかったか、自殺してしまう程に子どもの死を嘆き悲しみ続けたのだろうと想像すると、身につまされる思いがしました。

ゴーストハントは最後の7巻でまさかのどんでん返しがあり、最後まで楽しく読めます。ホラー好きな方は、是非読んでみて下さい。

・次回⇒ **特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 三好 司**



## オアシス文庫 recommend



バッタを倒しに  
アフリカへ  
前野ウルド浩太郎

この本は、バッタ博士こと、昆虫学者の前野先生がアフリカへ昆虫研究のフィールドワークへ行った時のエピソードをエッセイにしたものです。

アフリカと日本の環境や考え方の違いを面白く、しかし外連味なく書かれています。

読んでいるうちに私たちも、広大なアフリカへ想像の翼で飛んでいけることでしょう。

「知は現場にあり！」1つの事にかかる情熱が笑いにかわり、読む人を幸せな気分にしてくれます。

「何故、ウルド浩太郎なのか？」

クスクスと笑ってしまうこの1冊を是非読んでみてください。(教育委員会: 福田 亜季)

老健・特養寿安・支援長瀬の  
「オアシス文庫」から貸し出しできます▶



## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞOmB、そして教育委員会の各種活動にご協力をよろしくお願ひいたします。せっかく買っていただいたオアシス文庫…一昨年、昨年と全然読んでいません。今年はここ数年の新しい本を中心に読みたいと思います。本棚の前で、本を選ぶ楽しさ…しばらく忘れていました。

きっと皆さんも公私共に忙しく駆け足の毎日で、長らくの趣味や好きなこともなかなかできないでいる方も多いのではないのでしょうか。読書でも他のことでもなんでも良いので、少しでも、穏やかな、自分の時間を過ごすことができますように。やりたかったことがひとつでも多くできる良い一年になりますように。



教育委員会

(教育委員会: 中島美和子)